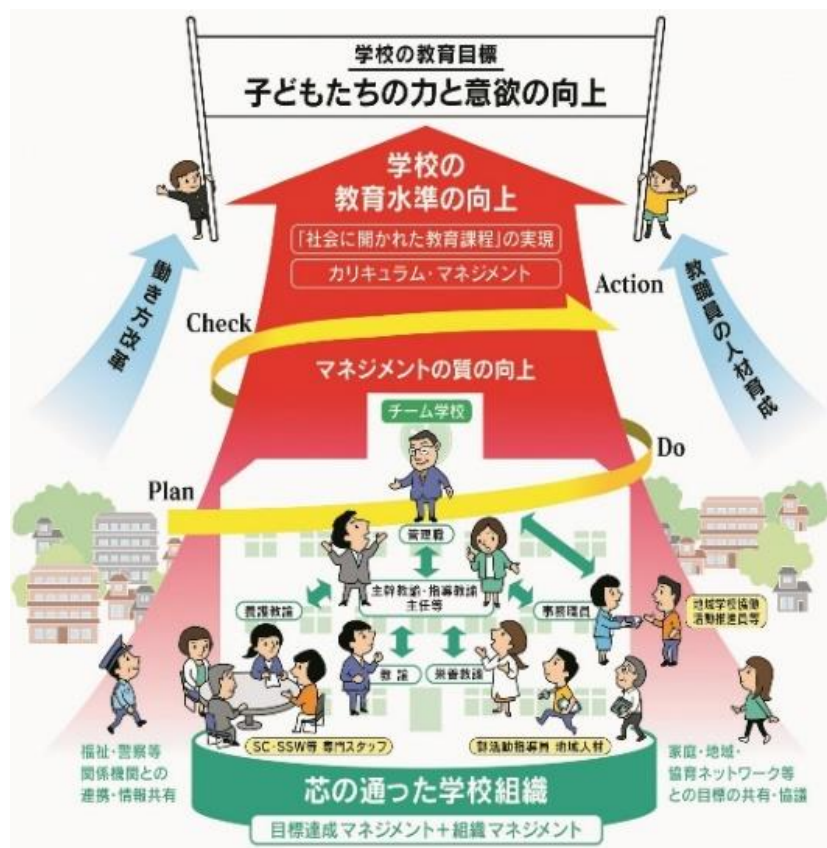


「芯の通った学校組織」推進プラン 第3ステージ ～取組事例 第2集～



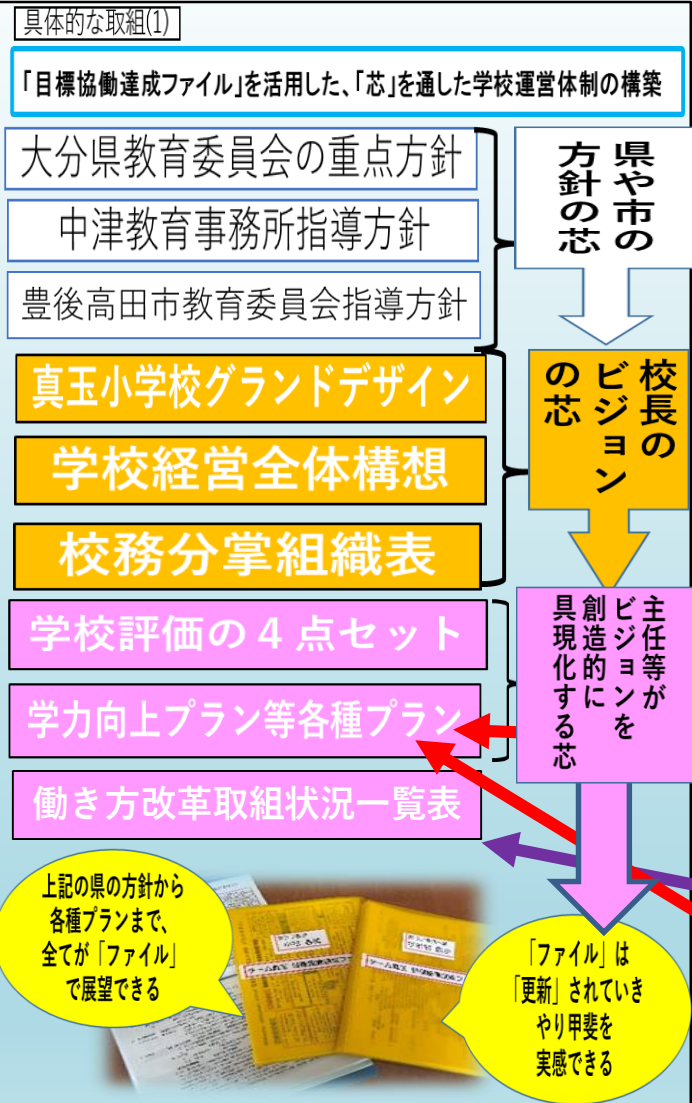
令和4年3月
大分県教育委員会

1. 学校マネジメントの深化
 【観点Ⅲ】「目標協働達成ファイル」を活用した「やり甲斐」を育む「芯の通った学校組織」の構築

取組実践校：豊後高田市立真玉小学校（児童数94名 7学級）

- (1)「目標協働達成ファイル」を活用した、「芯」を通した学校運営体制の構築
- (2)主任等が効果的に機能する「目標協働達成」サイクルを構築する

事例①



「DO」を充実させるための
 子どもと向き合う時間の確保

「働き方改革取組状況一覧表」で
 成果を可視化し、全職員で共有

改善項目	改善内容	実施時期	削減率	削減率根拠
1 職員研修時間の短縮	毎週水曜日職員連絡会終了後に10分間インターバルで実施	R2 5月 から	20%	50分間から40分間に改善
2 分掌部会持ち方改善	毎週木曜日に設定から必要時開催に変更	R2 7月 から	50%	常時打合せにより時間短縮
3 地域行事や校外学習の計画立案のスリム化	管理職や事務職の対応による渉外担当の明確化	R3 9月 から	50%	行事等の調整時間の削減目標

成果：「ファイル」を活用し、主任等が主体的に参画する学校の組織力向上と教職員が「達成感」を持って働ける環境づくり

1. 学校マネジメントの深化

事例②

【観点Ⅰ×Ⅳ】「学校課題等の解決に向けた地域学校協働活動の充実」

取組実践校:別府市立中部中学校(生徒数479名 17学級)

「学校課題等に地域とともに取り組む工夫」

【観点Ⅰ】学校組織としてのベクトルをそろえる

学校の教育目標

夢を持ち自ら学び続ける生徒の育成

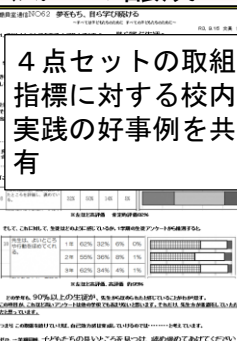
学校の喫緊の課題の洗い出し

年度当初の第1回教職員意識調査により不登校対応が喫緊の課題であることを共通認識

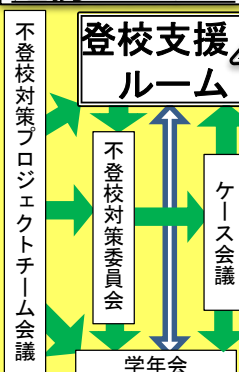
解決の方向性を共有(第2回教職員意識調査)

「すべては子どもたちのために、
すべての子どもたちのために」

職員室通信を活用した学校風土の醸成



不登校対応の連携システム



校内に不登校生徒の「居場所」をつくる

どこに? どうやって?

対応できる職員がいない!

統括コーディネーターによる調整

【観点Ⅳ】社会に開かれた教育課程実現に向かう地域の教育力の活用

地域学校協働本部(中部子ども応援プロジェクト)による学校課題等の解決に向けた取組の推進

学校の教育目標実現に向けた協働



「地域の先生」によるドリームスクール(職業講話)実施。

学校課題の解決に向けた協働



校内の倉庫を地域の協力で登校支援ルームへ改装



地域ボランティア(後に登校支援員として対応)による支援ルーム見守り

登校支援ルームの活用

中部子ども応援プロジェクトが人材バンク作成

人材バンクを教職員へ提示し教育活動を計画

教育課程編成へ

ドリームスクールを入れた次年度教育課程の編成へ

取組の成果: 目標共有に向かう三者の取組充実・不登校生徒にとっての居場所として支援ルームが機能

1. 学校マネジメントの深化

事例③

【観点Ⅳ】「学校・家庭・地域による目標協働の達成(目標協働達成)」

取組実践校: 由布市立挾間小学校 (児童数593名 25学級)

※学校運営協議会設置校

「『地域とともにある学校』を目指した学校運営協議会の体制づくり」

- ①課題を共有し、共通の目標(ビジョン)をつくり上げる。
- ②学校運営協議会としてできることは何かを考える。

「熟議で一步前進」 共有サイクルを回す

第1回 4月 **熟議①「情報の共有」
現状把握と共通理解**

CS委員でSWOT分析を実施



第2回 6月 **熟議②-1「ビジョンの共有」
どんな姿を目指すのか**

大事なことは学校の目標との擦り合わせ

教育目標 (1)主体的に学び、(2)人とのつながりを大切にする子どもの育成

本物に触れ本物に学ぶ

- ・地域人材の活用
- ・体験活動の充実
- ・人とのふれあい
- ・学びの創出 等

主体的な学び部会

人と人を繋ぐ

- ・保護者同士を繋ぐ
- ・幼小の連携
- ・PTAと連携した環境整備 等

人とのつながり部会

CS委員の個別面談 7月

- ・面談者: 主幹教諭
- ・時間: 30~60分
- ・内容: 趣味・特技、地域課題、子どものためにできること 等

個別面談は何のため?

各自が自分の強みを生かして活動する(できることで貢献・リソースの開発)

「個人の活動計画」を作成

【取組例】K委員の活動計画

いつ	2学期から
どこで	学校の図書館で
誰に	低学年に
何を	本の読み聞かせを
ゴールイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解を深める。 ・様々な本と出会わせ、興味関心を喚起する。 ・知ること、学ぶことへの意欲を高めていく。

第4回 2月 **熟議②-3「成功体験の共有」
振り返り**

今年度の取組の総括
何がよかったか、見えてきた課題は?
「成果・達成感・やりがい」を実感

次年度への意欲の向上😊

学校運営協議会の持続性・有効性を高めていく

第3回 9月 **熟議②-2「取組計画の共有」
各自の取組や思いをシェアする**

- ・各自の取組内容を説明し合い、活動や思いを共有する。
- ・困りや悩みへの助言、できるところから協働

【成果例】親児の会(父親部会)の取組拡充
→幼稚園の保護者にも紹介



1. 学校マネジメントの深化

【観点1】「重点目標や達成指標等の質を高める取組」

取組実践校：佐伯市立佐伯南中校区：4小1中

(上堅田小学校・下堅田小学校・青山小学校・木立小学校・佐伯南中学校)

「自校だけでなく複数校で協議することにより指標等の妥当性を高める」

- 4小1中で中学校区全体の学校評価を作成
- 各校では共通の達成指標等に対し、自校の状況を踏まえて具体的な取組を設定

★取組の流れ

【4小1中校長会】

(前年度末)

各校の実態から課題を
焦点化し、共通の重点
課題と目指す児童・生
徒の姿を明確化

(下図4点セットの青区部)



【各校】

共通の重点目標とめざす児童
生徒の姿から「具体的内容」「取
組指標」等の設
定→取組・検証へ

(下図4点セットの白区部)



【4小1中校長会】

(毎月)

取組状況の確認や
改善点等の協議
(4小1中での
検証・改善)



【各校】

取組・検証



★具体的な中学校区全体の学校評価の項目

① 4小1中共通の「教育目標」「育成を目指す資質・能力」「重点目標」「めざす児童・生徒の姿」等を設定

② 「達成指標」には、共通の指標と共に、各校で目指す指標も設定

③ 「めざす児童・生徒の姿」を、家庭や地域と共有できるようにCAN-DOの形で具体化

令和3年度 第3ステージ 学校評価の4点セット(学校自己評価報告書)						
佐伯南中校区CS「未来創造」の教育目標: 「未来」を創る力を身につけ たくましく生きる 児童・生徒の育成						
学校の教育目標: ふるさとから広がる大きな世界で、輝く未来を創る子どもの育成						
育成を目指す資質・能力: ●基礎・基本の学力 ●自分の言葉で表現する力 ●目標に向かい協働して高め合う力						
佐伯南中校区CS「未来創造」			小学校			
目	めざす児童・生徒の姿	重点的取組	取組指標		担当	
重	達成	概要	具体的内容			
点	指標					
基	佐伯市学力調査(12月実施) 全国平均以上	学校 ●授業で、基礎・基本の学習内容を理解することができ、家庭学習で、学習内容を定着、習熟することができる	●「新大分スタンス」に合わせた授業改善と学習習慣の確立 ●授業と朝学習と家庭学習の連動	●年間3回、合計6つの算教科提案授業と授業後研修を行う ●毎週金曜日朝の「上小5」チェックとクリーンアップタイムで、学習規律のチェックと学習環境整備を行う	学力向上担当・生活指導主任	
本	基本的学習内容の定着	家庭 ●家庭学習の見届けと励まし	●授業と朝学習と家庭学習の連動	●毎月1回漢字チャレンジと算数チャレンジ(全校テスト)を実施し、それに向けた家庭学習指導を行う		
質		地域 ●各種学習ボランティアへの協力		●毎日1つ以上の宿題を見届け、サインをするともに、励ましの言葉かけを行う。 ●9月付ボランティアや授業支援ボランティア等で毎月約60名以上協力する。		
的			●書くことに慣れるため、国語教科書の複写	●毎週1回以上、すべての学年で国語教科書の複写(作文ノート1ページ分)を家庭学習等	学	

【各校での取組】
○「具体的内容」「取組指標」等について、各校の状況に応じて詳細な方法を設定
→全職員で共通理解
○各種主任等を中心にして、短期の検証・改善を実施

【今後】
中学校区で共通した児童・生徒アンケート、評価問題等を検討

※色の付いている部分が4小1中で共通

1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅲ】「極小規模校における意思決定と業務改善」

事例⑤

取組実践校：竹田市立菅生小学校（児童数16名 職員8名）

- 取組① 学校運営組織の見直しと協議題の分類
- 取組② 「稟議」（机上回覧決裁）と職員朝会による意思決定

取組①

～極小規模な学校で運営委員会と職員会議の構成員がほとんど重なる場合は、運営委員会と職員朝会等で分掌間の意思疎通は十分であるとして、**職員会議を置かない**ことも考えられる。
 「芯の通った学校組織」推進プラン第3ステージ p15]

- 職員会議を廃し、意思決定・伝達の効率化
 - 各種委員会のメンバーを一本化
 - 協議題を分類し、効率化
- **机上提案、「稟議」を活用**

- 机上提案または「稟議」として扱う議題の例
- ・音楽祭練習計画
 - ・就学時検診
 - ・各種集会提案
 - ・環境集会・授業
 - ・修学旅行(周知のみ)
 - ・地区児童会
 - ・図書集会
 - ・元気アップ週間

稟議(回覧)の順序は特に決めない。提案者に近い順など、効率よく稟議(回覧)できるように。

取組②

稟議(机上回覧提案)

提案日 (10)月(4)日

提案者氏名 〇

議題 元気アップ週間の取組計画について

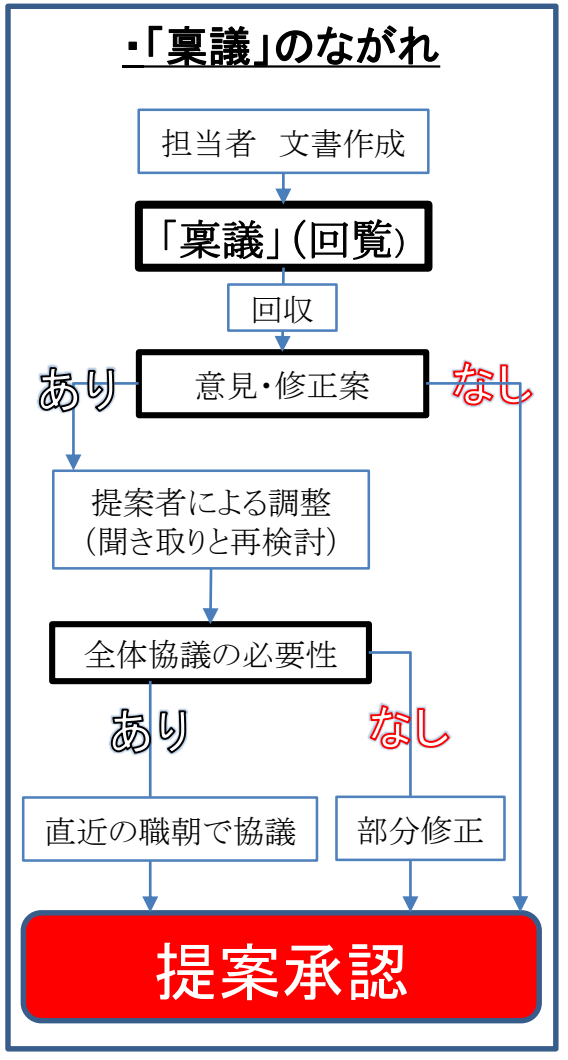
稟議(回覧)終了希望日 (10)月(11)日まで

確認欄

	○印またはサイン	意見・修正案等
校長	○	元気アップ週間、セミナーアワードなどの取組が、子どもや家庭に伝わる。(注) 稟議の順序が不明なため、順番が不明なまま
教頭	○	内容がわかりやすい。週間の取組計画は、学年のようには、担任からのコメントを入れてほしい。次の取組も、ぜひお願いします。
A	○	
B	〇	
C	○	
D	さいご	
E	○	
F	○	

提案に対して、同意・賛成の場合○印またはサイン。

提案に対して、意見や修正案がある場合のみ記入。



◎具体的な成果

- 【R3年度「稟議」として扱う協議題…のべ62本】
- ◆ 月に1回水曜日の午後、会議、研修のない日を持つことができた。
- ◆ 水曜日にあわせて月、火曜日に会議の準備の必要がなくなった。



☆ポイント

- 教材研究、授業準備、休暇取得等の時間確保。
- 月、火曜日に心理的な余裕。
- 各自のタイミングに合わせて提案、承認。

1. 学校マネジメントの深化

【観点Ⅳ】「地域協育CNを中心とする地域人材活用」

事例⑥

取組実践校：玖珠町立北山田小学校（児童数96名）

～「地域とともに歩む開かれた学校づくり」～

- 取組① 地域協育CNを中心とする取組の推進
 取組② 地域の特色を活かした多様な学校支援活動

取組②

体験活動を含め、地域の自然、文化、産業等に係る多様な支援内容。

取組①

<組織的な取組の流れ>

- ① **相談・調整** ⇒ 教務主任・各指導部・担任
 ⇨ 地域コーディネーター
 ⇨ 地域の講師等
- ② **活動** ⇒ 担任・担当（地域コーディネーター）
- ③ **評価・反省** ⇒ 担任・担当が学期毎の短期スパンで
- ④ **報告・集約** ⇒ 校長・担任が便利（学校・PTA・学級）
 学校運営協議会で
- ⑤ **次年度の方向性** ⇒ 年度末に原案作成
 （学校運営冊子「かけはし」）

学校運営冊子
 「かけはし」より

地域人材を活用した年間活動計画 北山田小

	学年	活動分野	教科等	内 容	実施予定	講師等（敬称略）
1	全校	学校行事	体育等	伝統芸能「まっかせ」の指導	5月	盆口脱き保存会
2	2年	学習支援	生活科	野菜（薩摩芋）の栽培指導	6月	
3	6年	学習支援	社会科	室町の文化（水墨画）	6月	八島真澄
4	5年	学習支援	総合的な学習	田植え	6月	石井龍文 JA
5	3年	学習支援	総合的な学習	高齢者体験（バリアフリー）	6月～7月	社会福祉協議会
6	6年	学習支援	総合的な学習	滝神社の歴史	7月	穴井宮司
7	4年	学習支援	総合的な学習	水生生物の調査・観察（うなぎの稚魚放流）	7月	八島真澄（玖珠郡漁協）
8	2年	学習支援	道徳	人権について	7月	高石元子
21	5年	学習支援	総合的な学習	地域の観光地を知ろう（サードマップを作ろう）	11月～2月	秋好恵一
22	4年	学習支援	社会科	地域の先人長野小六について調べよう	11月	*吉野弥也子
23	3年	学習支援	社会科	働く人たちの仕事を調べる（平川ようかん）	11月	八島真澄
24	3年	学習支援	社会科	働く人たちの仕事を調べる（花・野菜）	11～12月	穴井亮輔（サザンガーデン） 石井俊朗
25	1年	学習支援	生活科	昔の遊び	12月	今村弘子
26	2年	学習支援	生活科	甘酒づくり	1月	石井さちよ
27	5年	学習支援	総合的な学習	もちつき	2月	石井龍文 JA
28	3年	学習支援	社会科	昔の道具について	2月	湯浅 至

高齢者体験



地域防災



滝瀬楽（滝の市）



星の観察



室町文化（水墨画）



◎具体的な成果 【R3年度年間活動計画…28本】

- ◆ 地域協育CNが学校と地域の役割分担の明確化・適正化を図ることにより、**持続的・発展的な取組**が推進。
- ◆ 児童の身近な地域教材や人材の活用により、子ども**一人一人の学びに向かう力**が向上。
- ◆ 各種調査（全国学調、県学調、玖珠町学力調査等）で一定の成果。